

美術館での自由と民主主義を守るための申し入れ

日本共産党碧南市会議員団

山口 春美

岡本 守正

磯貝 明彦

日頃から、市民に「本物の美術」にふれあい文化と教養を高めるためにご尽力いただきありがとうございます。

愛知県で開催中の国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2019」の企画展「表現の不自由展・その後」が政治的圧力や脅迫により中止に追い込まれた問題は、日本の民主主義の深刻な現状を見せつけられました。

同時に、「表現の自由」への抑圧とたたかい、展示の早期再開を求める声も広がっています。中止された「表現の不自由展・その後」は愛知県の英断によって認められた企画展でした。それが外部からの脅迫と河村たかし名古屋市長の圧力によって中止に追い込まれました。本来ならば、安全確保のために国も協力して暴力を許さない断固とした態度を示して企画展を続けるべきだったのではないのでしょうか。ところが菅官房長官は暴力の危機によって表現の自由が脅かされているのに何もしないばかりか「補助金を精査する」とまで発言しました。「検閲」だとして、出展者の辞退も続いています。

私たちは、自由と民主主義を守る立場から、表現の自由を守る重要性について今改めて、憲法の立場から考える必要があるのではないのでしょうか。

今後も、碧南市の美術館としてたじろがず「表現の自由」を守っていただくこと。今回の展示の再開を機会あるごとに表明していただきたいと願います。

- 1、 今後も、碧南市の美術館として「表現の自由」をたじろがず、萎縮せず守り発展させてください。
- 2、 愛知県での展示中止に対して、展示再開を機会あるごとに表明してください。